

海外研修レポート

教育委員会事務局 主任 佐藤 知幸

(11月号より続き)

【イタリア】研修3か国目、3か所目の公式訪問は、『ラクイラ市』でした。イタリアは日本に匹敵する地震大国であり、中部に位置するラクイラ市は幾度の大地震を経験したことにより、災害対応や防災に特化した町です。

近年では、2016年のイタリア中部地震により、市の中心部にある中世の街並みが被災し、現在でも復旧が続いている状況でした。また、地震により被災した建造物のマップを作成し、被災前と同様の状態（歴史的建造物等）に復元する区域を設定することで、近代



▲復旧作業中の住居

的な街並みと中世の街並みの両立を図る取り組みも行われていました。

海外研修最後の公式訪問は、ローマにある『サンミケーレ老人ホーム』です。この施設は、ローマ市の中心部から車で約30分の閑静な住宅街にあり、民間業者ではなくローマ市が管理している施設です。老人ホームという名称ではありませんが、家庭に問題を抱える子どもへの保護施設としての機能も備えている施設です。



▲老人ホーム外観

高齢化率の国際比較において、イタリアは日本に次いで、世界2位となっており、EU諸国で唯一、65歳

以上の人口が14歳以下の少人口を上回っている状況から、日本と同様に高齢化率の上昇が社会問題となっています。

イタリアの福祉政策の推進においては、家族の責任と教会、ボランティア団体、労働組合の保険基金などに重点が置かれています。特に高齢者福祉においては、家族間での在宅介護の意識が非常に高くなっています。しかし、年金受給要件の変更や、各世代の就業率の上昇に伴い、在宅介護が困難な状況になってきていることは、家庭だけでなく行政としても大きな課題になっているとのことでした。

サンミケーレ老人ホームには介護職員や医療関係者のほかに、様々なボランティア団体の方が協力しており、入居者の身の回りのお世話や趣味活動、レクリエーション等に積極的な支援を行っていたことが印象的でした。

イタリア視察で感じたこ

とは、地震に関することや高齢者福祉に関することなど、日本との共通点が多いということでした。その中でも、環境や文化が大きく

違う国でも日本と似た課題を抱え、その課題解決に取り組んでいます。その取り組み方は日本と違うかもしれませんが、住民サービスの向上につなげたいという点は同じで、これからは視野を広げて、様々な視点から物事を見ていくことが大切だと感じました。

今回の研修では、視察先で目にするものだけでなく、移動中の街並みや食事など、見るもの感じるものの全てが新鮮で、その国の良さと共に、改めて日本の良さを感じることも出来ました。普段、当たり前にごしている日常生活から10日間離れることで、こんなにもたくさんのことを感じられるとは思ってもみませんでした。

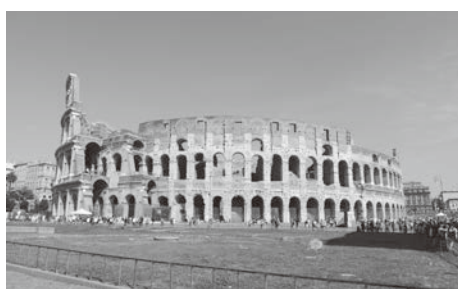
今回の研修で学んできたこと、研修を共にした仲間

達とのつながりを大切にしながら、これからの仕事につなげていければと考えています。

最後に、今回の研修参加にあたって、ご尽力いただいた皆様に感謝を申し上げます。私の海外研修報告とさせていただきます。



▲サン・ピエトロ大聖堂



▲世界遺産のコロッセオ